J.SPRINGS

取扱説明書
INSTRUCTION
メカニカル

ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ正しくご愛用くださいますようお願い申しあげます。なお、この取扱説明書はお手もとに保存し、必要に応じてご覧ください。

取扱を誤った場合に、重傷を負うなどの重大な結果になる危険性が想定されることを示しています。

取扱を誤った場合に、軽傷を負う危険性や物質的損害をこうむることが想定されることを示しています。

ルミネッセンスについてのご注意とお願い

「ルミネッセンス」について

「ルミネッセンス」は、放射能等の有害物質を全く含んでいない、環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)物質です。

ルミネッセンスは太陽光や照明器具の明かりを短時間(約10分間:500ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約3〜5時間)光を放つ夜光です。

なお、蓄えた光を発光させていますので、輝度(明るさ)は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際の回りの明るさや時計との距離、光の吸収度合により、光を放つ時間には多少の誤差が生ずることがあります。

〈照度データ〉　(目安値)

- 太陽光
  - 〔晴天〕100,000ルクス
  - 〔曇天〕10,000ルクス
- 屋内(昼間窓際)
  - 〔晴天〕3,000ルクス以上
  - 〔曇天〕1,000〜3,000ルクス
  - 〔雨天〕1,000ルクス以下
- 照明(白色蛍光灯40Wの下で)
  - 〔1m〕1,000ルクス
  - 〔3m〕500ルクス(通常室内レベル)
  - 〔4m〕250ルクス

メカニカルウオッチの特徴(手巻、自動巻)

- この時計は「ぜんまい」を動力に使用した、メカニカルウオッチです。
- 止まった状態からご使用になるときは、りゅうずを20回位手で巻いてぜんまいを巻き上げてから始動させてください。
- 精度はクオーツウオッチが月差・年差であるのに対し、メカニカルウオッチは日差(一日あたりの進み・遅れ)となります。
- さらに、ご使用になる条件(携帯時間、温度、腕の動き、巻き上げ量等)によって微妙に影響を受けますので、誤差は一定ではありません。

ご使用方法

各部の名称(NH35)

※モデルによって目盛りなどのデザインは異ります。

各部の名称(NH36)

時針　分針　りゅうず　秒針　日付　曜日

※モデルによって目盛りなどのデザインは異ります。

各部の名称(NH37)

※モデルによって目盛りなどのデザインは異ります。

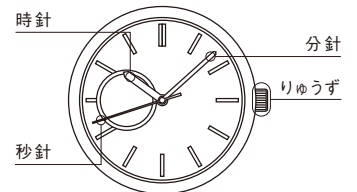
各部の名称(NH38)

※モデルによって目盛りなどのデザインは異ります。

各部の名称(NH39)

時針　24時針　分針　秒針　りゅうず

※モデルによって目盛りなどのデザインは異ります。

ぜんまいの巻きかた

1. この時計は、自動巻式機械時計(手巻つき)です。
2. ぜんまいは時計を腕につけた状態では通常の腕の動きで自然に巻くことができます。またりゅうずを回してもぜんまいを巻くこともできます。
3. 止まっている時計をお使いになるときは、時計を振っても動き出しますが、りゅうずをまわしぜんまいが十分に巻かれた状態にしまして、日付けと時刻とを合わせてから腕にお付けください。ぜんまいを巻く際には、りゅうず0段位置で右回転方向(12時方向)にゆっくりと回してください。なお、りゅうずは左方向(6時方向)では空回りするようになっています。また、ぜんまいはフル巻き上げ状態でぜんまいがスリップするようになっており、ぜんまいを切る心配はありません。
4. ぜんまいが十分に巻き上げられた状態での可動時間は約41時間です。

※ぜんまいの巻き上げ量が不足しますと進み遅れの原因になりますので、1日10時間以上携帯することをお勧めします。また、時計を腕につけないでご使用される場合は、毎日一定の時刻にりゅうずをまわしぜんまいを十分に巻いてご使用ください。

※ぜんまいが解けて止まった状態からお使いの場合、りゅうずでぜんまいを巻き上げても直ぐには動きません。機械式時計の特徴でぜんまい巻き始めのぜんまいトルク(力)が弱いためです。ぜんまいが巻かれてある程度の強いトルクに達すると秒針が動き始めますが、早めに動かすためには、時計を振りてんぷを強制的に回転させることで動かすことができます。

時刻・日付の合わせかた(NH35)

この時計には、日付表示機能がついています。24時間に1回日付を一日分送るようになっています。日付は、「午前0時」ごろ送り終わるようになっています。よって、午前午後をまちがえて時刻合わせをしてしまいますと、お昼の「12時」ごろに日付が変わってしまいます。

■時刻・日付の合わせかた

0段目　1段目　2段目

1. りゅうずを1段目まで引き出してください。
2. りゅうずを回転することで日付の修正ができます。前の日の日付に合わせます。
   (例)合わせる日付が「6日」の場合、「5日」に合わせます。
   左回転(6時方向)に回すことで日付の修正が行えます。
3. 秒針が「12時」の位置にきたときにりゅうずを2段目まで引き出して下さい。(秒針が止まります。)りゅうずを回転させ、針が進む方向にまわし、日付が今日の日付になるまでまわしてください。日付が変わると「午前」です。さらに進めて現在の時刻に合わせます。
4. 時報と同時にりゅうずを0段目まで押し込むと動き出します。

※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

時刻・日付・曜日の合わせかた(NH36)

この時計には、日付、曜日表示機能がついています。日付は「午前0時」ごろ送り終わるようになっています。また曜日は「午前4時」ごろ送り終わります。よって午前午後をまちがえて時刻合わせをしますと、日付はお昼の「12時」ごろ、曜日は「午後4時」ごろに変わってしまいます。

■時刻・日付・曜日の合わせかた

0段目　1段目　2段目

1. りゅうずを1段目に引き出してください。
2. りゅうずを回転させることで日付、曜日の修正ができます。合わせたい日付・曜日の前日に合わせます。りゅうず右回転で曜日が変わり、左回転で日付が変わります。また曜日が二カ国語表示(バイリンガル)モデルの場合には、ご使用したい曜文字を選んで合わせてください。
   (例)合わせる日付が「6日」の場合、「5日」に合わせます。
3. 秒針が「12時」の位置にきたときにりゅうずを2段目まで引き出して下さい。(秒針が止まります。)りゅうずを回転させ、針を進み方向にまわし、日付が合わせたい日付になるまでまわしてください。日付が変わったと「午前」です。さらに進めて現在の曜日、時刻に合わせます。
4. 時報と同時にりゅうずを0段目に押し込むと動き出します。

※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

時刻・24時針・日付の合わせかた(NH37)

この時計は、日付表示機能がついています。また24時針がついていますので、午前、午後は24時針で確認できます。日付は「午前0時」ごろ送り終わるようになっています。午前午後をまちがえて時刻合わせをしますと、お昼の「12時」ごろ日付が変わってしまいますので、24時針で午前午後を必ず確認してください。

■時刻・24時針・日付の合わせかた

0段目　1段目　2段目

1. りゅうずを1段目まで引き出します。
2. りゅうずを左回転させ日付の修正ができます。合わせたい日付に合わせます。
   ※万一、24時針位置が午後9時から午前1時の間の場合には日付修正を行なわなわず、時刻合わせ(No.3以降の操作)を先に行なってから日付修正を行なうようにしてください。
3. 秒針が「12時」の位置にきたときにりゅうずを2段目まで引き出して下さい。(秒針が止まります。)りゅうずを回転させ、現在時刻に合わせます。時針と24時針が連動していますので、午前午後を24時針で確認して、現在時刻に合わせます。
4. 時報と同時にりゅうずを0段目まで押し込むと動き出します。

※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

時刻の合わせかた(NH38)

■時刻の合わせかた

1. 秒針が「12時」の位置にきたときにりゅうずを1段目まで引き出してください。(秒針が止まります。)りゅうずを回転させ、現在の時刻に合わせます。
2. 時報と同時にりゅうずを0段目まで押し込むと動き出します。

※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

時刻・24時針の合わせかた(NH39)

■時刻・24時針の合わせかた

1. 秒針が「12時」の位置にきたときにりゅうずを1段目まで引き出してください。(秒針が止まります。)りゅうずを回転させ、現在の時刻に合わせます。時針と24時針が連動していますので24時針で午前午後を確認して時刻を合わせてください。
2. 時報と同時にりゅうずを0段目まで押し込むと動き出します。

※時刻合わせは、電話の時報サービスTEL.117が便利です。

メカニカルウオッチの精度について

- ●メカニカルウオッチの精度は「日差」です。
- ●メカニカルウオッチの精度は時計の姿勢(向き)によって、進み/遅れ具合が変わり、またお客様のご使用になる条件(携帯時間・温度・腕の動き・ぜんまいの巻き上げ量など)により、所定の精度の範囲を超える場合があります。
- ●1日のみの誤差で判断せず1週間程度の誤差で判断するようにしてください。
- ●精度の温度差・メカニカルウオッチの精度を作る部分には金属が使われています。金属の特性として、温度の変化によって伸び縮みすることは良く知られています。これが時計の精度に影響を与えます。メカニカルウオッチは高温下では遅れがちになり低温下では進みがちになります。
- ●ぜんまいの巻き具合と精度
  精度を高めるためには、歯車の速度をコントロールするてんぷに規則正しくエネルギーを補給する事が重要です。メカニカルウオッチの動力源であるぜんまいは、いっぱいに巻かれている状態とほどける直前の状態では力が異なり、ほどけるにしたがって力が弱くなっていきます。
  自動巻き式は頻繁に携帯していただく事で、また手巻き式はぜんまいを毎日一回一定の時刻に充分に巻き上げて規則正しく動かす事で、比較的安定した精度が得られます。

製品仕様

機　種	NH35	NH36	NH37	NH38	NH39
1.機　能	3針(時針、分針、秒針)日表示	3針(時針、分針、秒針)日・曜日表示	3針(時針、分針、秒針)24時針・日表示	3針(時針、分針、秒針)	3針(時針、分針、秒針)24時針
2.振動数	21,600振動/時間				
3.精　度	日差　+45秒〜−35秒(常温5℃〜35℃において)				
4.持続時間	最大巻上げ時　41時間以上				
5.駆動方式	ぜんまい巻(自動巻〈手巻つき〉)				
6.使用石数	23石	24石			

※上記精度は工場出荷時に調整されたものです。
※メカニカルウオッチの特性上、ご使用になる条件(携帯時間、温度、腕の動き、ぜんまいの巻き上がり量など)によっては上記精度の範囲を超える場合があります。

使用上のご注意とお手入れの方法

●装着・携行等でご注意いただきたいこと

⚠警告

- 携行時の転倒や他人との接触などにおいて、時計の装着が原因で思わぬけがを負う場合がありますのでご注意ください。
- 乳幼児を抱いたりする場合は、時計との接触でけがを負ったり、アレルギーによるかぶれを起こしたりする場合がありますのでご注意ください。
- 提げ時計やペンダント時計の場合は、ひもやチェーンによって大切な衣類や手、首などの身体を傷つけることがありますのでご注意ください。
- 装着状態の動作によっては、時計が大切な器物と接触損傷したり、時計の故障となる可能性があるので取り扱いには十分ご注意ください。

⚠注意

- バンド中留部の構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

●日常のお手入れ

⚠注意

- ケースやバンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。汚れたままにしておくと錆で衣類の袖口を汚したり、かぶれの原因となりますので常に清潔にしてご使用ください。
- 時計を外した時は、柔らかい布で汗や水分を拭き取るだけで、ケース・バンド・パッキンなどの寿命が違ってきます。
- 化学薬品(ベンジン、シンナー、アルコール類、洗剤等の有機溶剤)で洗うと、化学変化で時計が劣化することがありますので、ご注意ください。
  〈革バンド〉
  柔らかい布などで水分を吸い取るように軽く拭いてください。こするように拭くと色落ちしたり、ツヤがなくなったりする場合があります。
  〈金属バンド〉
  柔らかい歯ブラシなどを使い、部分水洗いなどのお手入れをお願いします。洗浄後は吸湿性の良い柔らかい布で水分を十分にふき取ってください。非防水時計の場合は、時計本体に水分がかからないようにご注意ください。
  〈軟質プラ製バンド〉
  蛍光灯や太陽光の下に長時間放置したり、汚れが染み込んだりすることによって、色あせ・変色や硬くなったり切れたりする場合があります。特に、半透明のウレタン製のバンドは、変色が目立ちやすく、使用条件によっては数ヶ月で起こり始める場合があります。湿気の多い場所に保管したり、汗や水に濡れたまま放置しておくと、早く変化することがありますので、汚れた時は、石けん水で洗ってください。バンドは化学合成製品ですので、溶剤によっては変質することがありますのでご注意ください。

●かぶれやアレルギーについて

⚠注意

- バンドは多少余裕を持たせ、通気性をよくしてご使用ください。
- かぶれやすい体質の人や、体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれをきたすことがあります。
- かぶれの原因として考えられるのは、
  ①金属・皮革に対するアレルギー
  ②時計本体やバンドに発生した錆、汚れ、付着した汗などです。
- 万一肌などに異常が生じた場合は、ただちに使用を中止して、医師にご相談ください。

●防水性能

時計の文字板または裏ぶたにある防水性能表示をご確認の上、使用可能範囲にそって正しくご使用ください。

時計の防水表示	防水の水準 ＼ 使用例		洗顔や雨など一時的にかかる水滴	水泳や水仕事など長時間水にふれる場合	空気ボンベを使用しないスキンダイビング	空気ボンベを使用する本格的な潜水およびヘリウムガスを使用する潜水(飽和潜水)	水滴がついた状態でのボタンの操作	水滴がついた状態でのリュウズの操作
WATER RESISTANTの表示のない時計	非防水		×	×	×	×	×	×
WATER RESISTANTの表示のある時計	日常生活用防水		◯	×	×	×	×	×
WATER RESISTANT 5・10・15・20ATMの表示のある時計	日常生活用強化防水	5気圧防水	◯	◯	×	×	◯	×
		10・15・20気圧防水	◯	◯	◯	×	◯	×

⚠警告

- 日常生活用強化防水(10・15・20気圧防水)の時計は、飽和潜水や空気潜水には絶対に使用しないでください。
- 日常生活用強化防水(5気圧防水)の時計は、素潜りを含め、すべての潜水行為には絶対に使用しないでください。
- 日常生活用防水(3気圧)の時計は、水の中に入れてしまうような環境では絶対に使用しないでください。

⚠注意

- 日常生活用強化防水の時計を海水等の環境下でのご使用後は、なるべく早く塩分などを洗浄してください。錆の原因となる場合があります。水道蛇口下での洗浄は、過度な水圧が加わり、防水不良の原因となる場合がありますので、容器内洗浄で過度な水圧が加わらぬように注意してください。
- 革バンドは材質の特性上、水にぬれると耐久性に影響が出る場合があります。

●保管について

時計を使用しない時は、次の事項が、時計の破損や劣化、故障の原因等となる場合がありますのでご注意ください。

①「−5℃〜+50℃からはずれた温度」環境下では、性能が劣化したり、停止する場合があります。
②直射日光の当たるところ、高温になるところ、低温にあるところに長時間置くと時刻精度の遅れや進みの原因となる場合があります。
③磁気の影響(テレビ、スピーカ、磁気ネックレス等)があるところに放置すると、時刻精度の遅れや進みの原因となる場合があります。
④強い振動のあるところに放置すると、破損や時刻精度の遅れや進みの原因となる場合があります。
⑤薬品の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置すると時計の劣化や破損の原因となります。
　薬品(例)ベンジン、シンナー、マニキュア、化粧品などのスプレー液、クリーナー剤、トイレ洗剤、接着剤、水銀、ヨウ素系消毒液、防虫剤など
⑥温泉入浴、殺虫剤の入った収納場所など、特殊な環境に放置すると時計の劣化の原因となる場合があります。
⑦長時間時計を外しておく時は、箱などに入れて、風通しのよい場所に保管することをお勧めします。

●定期点検について

- ながく安心してご愛用いただくために、2〜3年に1度程度の分解掃除による点検調整をおすすめします。
  ご使用状況によっては、機械部の保油状態が損なわれていたり、油の汚れなどによって部品が摩耗し、時計の進み、遅れが大きくなることがあります。また、パッキン等の部品の劣化が進み、汗や水分の侵入などで防水性能が損なわれる場合があります。分解掃除による点検調整をお買い上げ店にご依頼ください。
- 部品交換の際は、「弊社指定の純正部品」とご指定ください。
- 定期点検の際は、パッキンやバネ棒の新品交換も合わせてご依頼ください。